

情報Boxでの納入事例

背景：利用可能な管路(内径50 mm)が1本しかないところに、ケーブルを2本敷設する必要があり、MaxCellが採用された。
現場：新潟県

1



Max Cell 5420 × 2
2,100m巻、総重量160kg

2



Max Cellをケーブルスタンドにセット

3



情報ボックスマンホール内部

4



Max Cell端部

5



Max Cellに切り込みを入れる

6



プルテープを引き出し余分な部分を切り取る

7



ロープを切り込みに通し固く縛り
ハーフヒッチを作る

8



ハーフヒッチでMax Cell端部にビニール
テープを巻きつける

9



ロープの端部に撚り戻し金具をつける
もう一方の端部にガイドロープを結ぶ

10



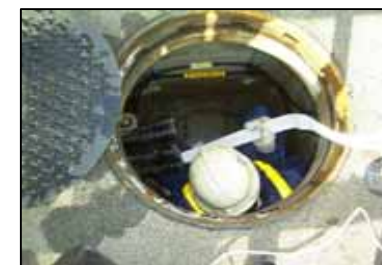
FEP管のパイロットワイヤーにロープを
結ぶ

11



引っ張り開始、ロープ部挿入

12



MaxCell挿入開始
よじれが付かないよう手で補正する

13



MaxCell貫通

14



牽引機100キロ以下で引けた

15



ケーブルのブーリングアイにMaxCellの
プルテープを結ぶ

16



ケーブル挿入開始

17



MaxCellが引き込まれないよう
マンホールの金具に固定

18



中継マンホール内部

(写真提供：北日本電線サービス株式会社)